



岸本なお子



田村ゆう子

## 調布市議会第3回定例会閉会 令和6年度決算に賛成

令和6年度は前期基本計画の2年次目、5つの重点プロジェクトを軸に、市は計7回の補正予算を組み、物価高騰対策を実施しました。日本共産党調布市議団は、学校給食費無償化の実施に踏み出したことや、介護保険料の据え置き、地域防災計画の修正、緊急避難道路の再整備、学童クラブの増設、保育園の空き定員による運営費補助、高齢者の支援体制の拡充、北部地域に特別支援学級の開設などを評価し、様々な要望を行ったうえで、令和6年度の決算に賛成しました。

長引く物価高騰、経済の長期停滞、失われた30年がもたらした暮らしの困難によって、市民生活はますます厳しさを増しています。調布市においても、各種事業への相談件数が年々増加しているだけでなく、より複雑化、深刻化、加えて若年化していることが、審

査の中でも鮮明になりました。市民生活支援を第一の責務としている市の福祉的役割が問われています。

来年度、市は下水道料金の値上げや国保税の値上げを予定しています。税制と財政が果たすべき役割の一つは、市民の負担能力に応じた税制や社会保障によって、所得を再分配したうえで格差を是正し、すべての人の暮らしや生業を守ることです。しかしこれまで行われてきたのは、大企業減税と富裕層への税優遇。社会保障の再分配機能がこの間、壊され続けてきました。このような根本問題に目を向け、市民に最も近い基礎自治体として、国・東京都の姿勢を変えていくことにも力を注ぎ度重なる負担増を抑えるべきであると求めました。



## 後期高齢者医療特別会計に反対

後期高齢者医療制度は、導入以降、改定のたびに値上げされ続け、令和6年度もまたもや大幅値上げとなりました。

要因のひとつに、少子化対策の財源を後期高齢者に負担させたことがあります。国は「全世代型社会保障」を謳っていますが、物価高、年金削減に加え保険料値上げの三重苦は、高齢者の暮らしと健康を脅かすものです。高齢者の医療費が高くなるのは当然であり、医療費負担率を低くしてはじめて、現役世代と「公平」になります。「社会保障が高齢者に偏っている」などと世代間対立を煽り、高齢者への負担増を強いる制度改定は容認できるものではありません。国や東京都、広域連合へ声を上げるべきであると求め、決算に反対しました。

## 意見書なぜ否決!?

最終日には、日本共産党調布市議団から「パレスチナ国家承認を直ちに行うよう求める意見書」「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)の国籍要件の撤廃を求める意見書」を上程しましたが、いずれも、チャレンジ調布、自民、公明、維新、立憲などの反対で否決されました。

パレスチナ国家承認は与野党を超えて多くの国会議員が要望しています。調布市議会の質が問われます。

## 日本共産党調布市議団これまでの実績

- ・小中学校給食費の無償化
- ・補聴器助成制度・子どもの医療費無償化
- ・生活保護世帯エアコン補助
- ・保育園0歳児空き定員補助
- ・不登校児童生徒への支援拡充
- ・PFAS水質検査実施
- ・親子連れ投票推進
- etc...

市民の皆さんの運動とともに実現してきました！今後も皆さんと共に頑張ります！

## 下水道料金大幅値上げ？

下水道料金の来年度値上げが結論付けられました。老朽化による負担増に加え、東京都へ収める維持管理負担金の大幅上振れによるものです。値上げ率は29.8%、それ以上になる可能性も想定されています。市民、事業者の声を聞き、改定率の抑制、緩和措置を行うと同時に、一般会計からの支援策を探索すべきと求めています。



# 一般質問

第2回定例会では  
物価高騰対策、PFAS汚  
染対策、外環道工事の  
課題について質問！



岸本なお子

## ●異常な暑さから命を守る対策を

市が4月から開始した制度改正前の生活保護世帯へのエアコン購入費助成制度の実態を質問。市は「エアコンの設置がない60世帯のうち希望のあった15世帯に助成決定」と答弁。東京都のゼロエミポイント事業拡充の対象外の世帯や低所得者世帯への経済的支援について、今後の検討とすべきと求めました。

今年の6月から、猛暑のなか屋外で働く労働者の命を守るための対策が義務化されました。この経費負担について事業者から悲鳴があがっています。実態把握と今後の対策について質問し、市は「商工会からも環境整備の費用負担について話は伺っている。産業振興課とも連携し労働安全衛生規則改正の趣旨にのっとった取り組みを促進したい」との答弁でした。

## 高齢者の医療費負担軽減、特養老人ホーム・補聴器購入費助成制度の拡充等、暮らしを支える支援、外環道工事に伴う住民への対応について

### ●戦後80年を迎え今後の施策拡充を

市報ちょうふ8/20号の市長のメッセージは、亡父の戦争体験を身近に感じてきたからこそ軍拡論だけを展開する現在の世情に疑問を呈する貴重な言葉でした。

日本被団協がノーベル平和賞受賞を受けて今こそ核兵器禁止条約批准を国に求めるよう質しましたが、市長は「国の専管事項」と述べるに留まりました。

これまで前進させてきた、平和事業をさらに広い世代に「目で見てわかる施策」とし、完成間近の調布駅前広場のデジタルサイネージ(電子掲示板)設置も活用するよう提案。市は「今後の事業拡充とともに市のHPに平和事業のコーナー策定を検討する」との答弁でした。

### ●生活保護制度の最高裁判決の動き

今年の6月に最高裁が下した「生活保護基準引き下げは違法」は画期的なものです。しかし国の動きは検討会を繰り返すのみで何も示されていません。本来なら、当事者に謝罪し未払いの支給も急ぐべきです。かねてからの課題である夏季加算を含め、支給を急ぐ意見を国と都にあげるよう求めました。市からは賛同の答弁がありました。今後も国の動きを変えるため、市民とともに力を合わせていきます。

## 排外主義的潮流に対する市長の認識、児相サテライトオフィスの早期設置 自閉症・情緒障害特別支援学級の設置について

### ●排外主義的潮流への市長の見解は

先の参院選で外国人政策が大きな争点となったことをきっかけに、インターネット上での事実に基づかない言説や過度な外国人バッシングが問題になっています。昨今蔓延している排外主義的潮流への市長の認識を問いました。市長は「日本国内すべての居住者が基本

的人権を尊重されるのは当然。」と答弁しました。外国人への攻撃は、ゆくゆくは日本人にも広がり、年齢、性別、障害の有無などその矛先が社会的弱者に必ず向かっていきます。差別を許さず、全ての人の尊厳が守られる社会へ、市にはその先頭に立ちたいと要望しました。

### ●児相サテライトの早期設置を

市が「サテライトオフィスの設置を都へ要望する」と答弁してから2年半が経過。多くの関係者から期待の声が寄せられている中で、早期設置に向けての市の認識を質しました。答弁はこれまでと同様の内容に留まりましたが、市長への再質問で

「粘り強く交渉をしている」と答弁。ひとりでも多くの子どもを救うために全庁一丸となって対応してほしいと要望しました。

### ●自閉症情緒障害特別支援学級を

個々の特性に応じた支援を行うことは、子ども自身の自己理解、将来の生きやすさに繋がります。自閉

症・情緒障害特別支援学級の設置を求めましたが、市が目指すのはインクルーシブ教育であるとの考えでした。インクルーシブ教育も大切ですが、今支援が必要な子どもたちがいます。支援を求める子どもがいる限り、粘り強く求め続けていきます。

※インクルーシブ教育:障害の有無など多様な背景を持つ子どもが  
分け隔てなく共に学ぶ教育システム

第2回定例会では  
北部地域の公共交通、  
ジェンダー平等について  
質問しました！



田村ゆう子

## 議会 コラム

今回の市議会定例会では決算審査が行われました。厚生委員会では他会派の委員からも市民の暮らしや人権についての発言がありました。いまの混沌とした社会をどう変えていくかは国の緊急課題です。自民党は女性初の新総裁が選ばれたものの、根本にある自民党政治が変わるでしょうか。日本共産党は、今後も一人ひとりを大事にするあたりまえの社会をつくるため、がんばりつづけます。毎日の生活の中で困ったことがあった時は、日本共産党にご相談ください。  
(岸本なお子・田村ゆう子)